



名古屋東海ワイズメンズクラブ

会長主題 「ジャンプ！」

国際会長主題 「命の川を信じよう」	Jacob Kristensen (デンマーク)
アジア太平洋地域会長主題 「変化をもたらそう」	David Lua (シンガポール)
西日本区理事主題 「Let's do it now!」	吉田 裕和 (京都トウビー)
中部部長主題 「知らせよう! ワイズの奉仕活動を」	早川 政人 (名古屋グランパス)
名古屋東海クラブ標語 『限りなき熱情を奉仕に』	

今月の聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。 (ローマの信徒への手紙 12章 15節~17節)

強調月間 JWF (Japan West Y's Men's Fund)

3月例会等ご案内

◎ 3月第1例会

日程：3月11日(木) 18:45~

担当：木村真知子君

会場：名古屋YMCA

また、食事はありません(ご注意下さい)

開会宣言・点鐘：太田全哉会長

ワイズソング・五つの信条

【新型コロナ対策の為省略します】

開会祈祷：松本勝君

卓話：『3.11 震災支援ワイズとユースの協働』

講師：鈴木一弘君(本クラブ広義会員)

諸連絡

閉会宣言・点鐘：太田全哉会長

◎ 3月第2例会

日程：3月18日(木) 19:00~

会場：名古屋YMCA

例会は緊急事態宣言・新型コロナの感染状況により中止になる可能性もありますので、ご了承下さい。

お年玉切手シートの当選番号は50、58、60です。当たっていたらシートに換え、CS担当の長谷川和宏君にご提出下さい。

東海ワイズ五つの信条

- 一、自分を愛するように隣人を愛そう
- 二、青少年のためにYMCAにつくそう
- 三、世界的視野を持って国際親善を果たそう
- 四、義務を果たしてこそ 権利が生じることを悟ろう
- 五、会合には出席第一 社会には奉仕第一を旨としよう

【出席率】 2月末一在籍者 20名
(内広義会員 2名)
出席者 0名 (Make up 0名)
出席率 算出不能

【特別ファンド】
2月ファンド 1,000円
合計 1,370,244円

『3.11 震災支援 ワイズとユースの協働』

鈴木一弘

名古屋東海クラブの皆さん、こんにちは。浅野メンと太田会長のご好意により、3月例会の卓話を拝命いたしました。11日(木)は、宜しくお願いします。

私自身、2011年4月初めに、日本YMCA 同盟の派遣で岩手県釜石市に赴き、名古屋 YMCA の派遣で、ユースを連れて仙台 YMCA を拠点に同年5月、7月と活動しました。その7月の活動中に同盟の依頼で福島県に飲料水を運搬し、それを契機に、学生 YMCA より以降10数回にわたり、同県南相馬市を中心とした「子どもの遊び場」へ協力をしてきました。さらに、愛知県内の高校インターアクトクラブのメンバーを連れて、スタディツアー、避難所ボランティアを引率しています。3月例会では、これらの私の体験を中心にお話をしたいと考えています。

東日本大震災、この未曾有の出来事に関する過去の新聞記事を渉猟してみました。

【2011年4月17日：中日新聞】



釜石市の支援から戻った翌々日に、当時東区代官町現地の状況報告とこれからの支援を考える会を開催しました。現地にはノートパソコンを持ち込み、長谷川メンと毎日のようにメールで連絡を取りつつ、企画・実施した緊張の日々が昨日のように思い出されます。

【2012年3月21日 中日新聞】



震災から1年後、宮城県沿岸部で活動したユースたちの報告、そして福島の現地からのゲストスピーカーによる放射能事故のマスコミでは報道されにくい実情、不安について報告がなされました。これは中部地区ワイズメンズクラブ主催の「YYYフォーラム」として開催されています。

表題にある「ワイズとユース」の協働、3.11以外にも 9.11 アメリカ同時多発テロの追悼行事など、いくつかの協働の事例が新聞記事その他で、我が家の本棚のファイルから散見されました。また機会を追って紹介ができればと考えています。

『学びの時』

橋爪良和

2月23日、コロナ禍の影響によりオンラインで行われた第21回日本YMCA大会に参加した。ワイズメンズクラブはその定款で「YMCAへのサービスクラブ」として位置づけられてる。ワイズはまず何より、名古屋YMCAの維持会員であり、その様々なプログラムに参加し募金事業にも協力している。毎月の例会はYMCAの会場を借りて行われ、クラブにはYから派遣された担当主事さんもいる。日常的に、この2つの組織が共に歩んでいる姿を見ると、「車の両輪」といわれる2つの組織の関係が理解できるが、私のようにワイズに入会する前には全くYMCAとの関わりがなかった者にとって、

YMCAがよく見えなかったというのが正直な感想だった。極端に言えば、ワイズから見ればYが附属組織のように見え、「社会奉仕はYだけでなく、地域のあらゆる団体や部門に対して行ってもいいのでは」という意見が、ワイズ側から出てくるのも不思議はないと思えた。

昔、20代後半時代に東山荘で行われた「YMCA大会」に、初めて参加した。当時の主事さんに参加するよう勧められ、違和感を抱きながらも土曜日の仕事を終え、車で御殿場に向かった記憶がある。そこでの体験はある意味で新鮮だった。様々な地域から、仕事の有無、領域、年齢、性別などを超え、何十年の長い友のように笑い合い、難しい論議をする姿は、当時の私には理解できなかった。それまで一部しか見えてなかったYの顔の、全体像の影が見えてきたように思った。異質なものが交わり、つながっていく。親睦の輪を広げることで、新しい世界が見えてくることもある。それを知ることができた、貴重な出来事だった。



前置きが長くなったが、2年に一度の「YMCA大会」のほんの一部だが、パソコンで参加した。とくに、基調講演として牧師の岡田寛雄氏によるインタビュー動画を拝聴し、共感を覚えた。「YMCA大会は異質なものとの出会い。それが連帯を生み、つながっていく」と岡田氏は語り、九州大学の学Y出身者である故中村哲氏を紹介した。彼はアフガニスタンの砂漠に緑を育てるため井戸を掘り、地域の人たちを守った。一方でその国に爆弾の雨を降らした国もあった。

「今、モーゼの十戒の最後の戒めである『汝、貪るなかれ』を思う。分かちあう倫理を大切にしよう。まさに、コロナ禍の今こそ文化と文明が問われている。YMCAに連なる者は、それぞれの地域のニーズを見て、地域のために連帯しよう。公共の課題へ活動を広げよう」と、組織のビジョンの大切さを訴えた。

また、同盟の田口総主事は、「ポジティブネット掲げる我々は、仲間や他者の生命、健康を考えていこう。身近な問題が世界につながっている。1本のろうソクが灯されれば、決して暗闇ではない」と会員に呼びかけた。新たな学びの時間だった。

『名古屋 YMCA 市内中学生

バスケットボール大会のこと』

八木武志

1月の第2例会が中止となり、メーテレ（名古屋テレビ）の「アップ!」を見ていたら、今年のウィンターカップの女子の部で優勝した桜花学園高校のバスケット部の特集をやっていた。監督の井上真一先生は60回以上の全国制覇を果たした名監督ですが、かつては中学校のバスケットボールの指導者として名古屋 YMCA が主催する中学生バスケットボール大会にも多大なご奉仕をいただいた。



当時の名古屋 YMCA のスタッフとしてこの大会の運営にあっていた水野保君とは同年のバスケット仲間（今年74歳）、楠中学、守山中学時代に、当時若葉中学の松井先生、一柳中学の安藤先生な

ど教員指導者協会の先生方と大会の運営にご協力をいただいた。私も水野君に誘われて若葉中学や一柳中学のバスケット部の練習の見学に行ったことや審判の先生が急に来られなくなって水野君に頼まれて審判をやった（変更されたルールが判らぬまま）ことなどを思い出しました。

テレビの特集では、2年前のチーム編成で一年生をポイントガードに抜擢し、スタートメンバーでしたが、全国大会の準決勝で敗れ、その時その一年生にポイントガードの大事な役目はチーム5人の意志疎通をはかりチームプレーを実現するためにコミュニケーションが一番大切なことだからもっと声を出せと指導されたそう。この時の一年生が今年の主将としてチームを率いて全国大会のウィンターカップを勝ち取ったのです。今年はインターハイ、国体が中止となり三年生にとって唯一の全国大会であり、唯一つの全国制覇でした。

井上先生はコートでは相変わらず厳しく指導されていたが、合宿所では高校生のお爺ちゃん(好々爺ぶりはもう板について)として慕われていました。



懐かしく昔を思い出していましたが、コロナ禍の中、名古屋YMCAの大会も昨年は中止となり、今年も開催が危ぶまれています。開催を前提に準備は進められると思いますが、実行委員や各学校の先生方も気が気でないと思います。無事開催できるよう祈っています。

民間の団体(YMCA)が主催する、しかも半世紀以上続いているこの大会を絶やすことのないよう頑張っているスタッフにエールを贈ります。

『部長の時のほなし』

浅野 猛雄

私が部長をした時、先輩から「部長訪問は一つのクラブに2回行くんだ」と教えられその通り実行致しました。最初の訪問は金沢クラブです。3時頃の新幹線で米原経由金沢へ、例会終了後澁谷さんと二次会へ、翌日の訪問は富山クラブでした。金沢から富山へは列車で30分なので、金沢でゆっくりして富山へ行けば良いものを、仕事人間だと思っていた私は朝6時のしらさぎで名古屋へ戻り、その日の3時今度は特急ひだで富山へ、例会終了後菅原さん達と二次会へ、富山から名古屋へは朝5時30分発のしらさぎです。富山クラブへは計3回行きました。2回目の公式訪問はEMC主査の栗原君(四日市クラブ)と二人でした。折からの大雪で、栗原君はその時の車窓の景色を今でも墨絵の世界だと言っております。3回目の訪問は、次の部長が富山の菅原美穂子さんだったので、部会会場の庄川観光ホテルでの下見に同行致しました。



先月号で日本区の二分割は否決されたとお伝えをしましたが、その後、二分割が可決され、私の部長の時から日本区理事の他に西副区理事、東副区理事がいて、それぞれ、西副区大会、東副区大会が開催され1994年6月の第一週は熊本へ、翌週は東山荘の東副区大会の参加でした。

1997年名古屋での吉田一誠理事、池野輝昭大会実行委員長長の第50回の日本区大会を最後にそれぞれ、西日本区大会、東日本区大会として開催されています。

『東海自然歩道』

柴田洋治郎

私は山歩きが好きなので、今回は東海自然歩道を歩いた経験をもとに話をします。東海自然歩道は東京八王子の高雄山を起点に大阪箕面公園まで続く1678kmの遊歩道で、環境省と地元自治体が所管する、言わばナショナルトレイルです。道標、休憩用ベンチも整備されていますので、山歩き好きにとっては人気のルートです。私は当時月に3～4回は歩いていました。



私の最初の自然歩道体験は平成5年で、約30年前のことです。最初はJRや私鉄を利用して最寄り駅からルートの出発点まで行き、4～5時間のウォーキング後、又最寄りの駅まで戻ることを繰り返しました。相当の時間を要しました。数年後から妻と共に車で登山口近くまで行き、山歩きは同じ道の往復となりました。この時から、下山後の楽しみとしてスーパー銭湯で疲れをとることが習慣となりました。往路は私の運転、復路は妻の運転だったので、湯上りの一杯もOKでした。東海自然歩道を歩いたのは、全て日帰りのできる愛知・岐阜・三重のルートで、このルートを経験して思ったことは、愛知県で生まれ育ったのに名古屋以外の土地のことは何も知らずに暮らしてきたことと、身近にこんな素晴らしい自然が存在していることを知ったことでした。特に奥三河ルートでは、直立した杉や檜の間から届く木漏れ日や清涼な香りは心身をリフレッシュするものでした。又、山道に至る途中にある小さな集落には必ずこじんまりとした神社や祠があって、その地で暮ら

す人々が代々に亘り、自然や神に対する畏敬の念の象徴として、更にはまつりごとや情報交換の場として存在してきたのだと想像すると、鳥居をくぐって自ずと手を合わせました。



頂上や折り返し점에到着して、雄大な自然に囲まれて水分補給とおにぎりをほおぼった時は、町中の高級レストランなんかよりも遥かに美味しい時間を持ったと感じてから、再充電により折り返し道を再び元気に歩み始めます。

ガイドブックなどでは自然歩道のことをウォーキングと表現することが多いですが、結構ハードな箇所も多く体力も相当消耗することもあるので油断は禁物です。場所によっては登山と同等のところもあります。

主だった自然歩道を一巡した後も、気に入った所は何回か訪れました。併行して‘知多四国八十八寺巡り‘‘鈴鹿山系‘‘中央アルプス‘‘北アルプス登山へと繋げていきました。しかし残念ながら8年前に御嶽山下山中に腰を痛め、更に加齢による足の筋肉の衰えも出てきたことから、現状長時間ウォーキングや登山はできません。今は自宅周辺の散歩程度でお茶を濁していますが、いつの日か歩みを復活したいと願っています。



震災被災者のために

市民版

【付録】



名古屋YMCA

市内の十、二十代の若者たちが、東日本大震災の被災者のために活動する「震災支援YMCA(キリスト教青年会)ボランティア・ネットワーク」を十六日、東区代官町の名古屋YMCAで立ち上げた。当会は募金の呼び掛けが中心になるが、トレーニングリストで提案を続け、活動の幅を広げていく。

ます募金 呼び掛け 活動の幅拡大へ

会は、被災地の若手 去や炊き出しをした元、フの高教諭鈴木一弘さん(含む)が発案。「復興支援に若い力を生かしたい」と呼び掛け、大震災」と記入、その立ち上げ会には高校生、若者ら三十五人が参加した。阪神大震災を体験した、内容や東海豪雨でボランティアをした経験者も駆けつけた。

「何をすべきかは自分でも考えてほしい」とを語り、「希望がくらくらした。参加者は各人の班に分かれて話し合った。山守区森孝東は「自分分は今何ができるか分からない。でも、見つけた。YMCAに電

被災者のために「ます募金」として活動する。募集要項や市公指す大学生などで、8月か、式ウェブサイトをご覧ください。▼お問い合わせは5月2日 事務室 ☎961-2772

若者がボランティア組織



水辺の宝石 明成会所属 伊藤靖子 (西区)

伸びのこ

名古屋市教育局委員会で(月)まで、入塾試験は7は、「なごや教師養成塾」月2日(土)。受講料は2の4期生を募集します。対 万円。詳細は、区役所などは名古屋市、なごや教師養成 募集要項や市公小学校教員を、4 期生募集 募集要項や市公指す大学生などで、8月か、式ウェブサイトをご覧ください。▼お問い合わせは5月2日 事務室 ☎961-2772

動 区 沢 客 県

市民版



パンジー 創災美術協会所属 青山 和子 (緑区)

ニュース、情報は社会部へ 231-7333 Fax201-4331 Eメール shakai@chunichi.co.jp 中日新聞へのご意見は 読者センターへ 221-0800 Fax221-0819 Eメール center@chunichi.co.jp

苦悩、希望… 被災者の声

2カ所で震災シンポ

東日本大震災から一年が過ぎ、あらためて被災地の現状を知り、津波の教訓や支援を考えよう。シンポジウムが二十日、市内の二カ所で開かれた。被災者や現地ボランティアをした人が意見を述べ合い、関心をもち続けることの大切さを訴えた。(丸田稔之、日下部弘大)

震災から1年ここからできるしん「せもち」を「カタチ」 YYYフォーラム2012



これからの被災地支援などについて話し合う参加者たち=東区代官町の名古屋YMCAで

東区の名古屋YMCA(キリスト教青年会)では、福島市で「市民放射能測定所」を

不安 言い出せない人も

運営している丹治宏さん(ご)は「野菜を食べていいかなど常に選択を迫られる」と生活の苦しみを説明。原発事故で愛西市にある妻の実家に妻子を避難させた際の心境を「二度と会えないかもしれない」と振り返った。福島県白河市の竹古真希さん(ご)は「住民間でも感受性の違いがあり、周りに遠慮して放射能への不安を言い出せない人もいる」と話した。宮城県内でボランティアをしたYMCA会員の若者たちも報告。「一度現地に行く」と意識が変わる。「今回の震災を私たちが教訓にして、備えをすべきた」と訴えた。

学問守護・厄除招福・交通安全 名古屋天神 名古屋市中津区赤坂町4-89 電話☎(06)6120-0101

上野天満宮

- 合格祈願
- 自動車技
- 初宮詣り
- 地鎮祭
- 各種二祈
- 年中
- 厄払い
- 安産祈願
- 七五三詣
- 障工事
- 出張登壇

緊急医

○初期医療機関
内科・小児科・市医師会救急
深夜急病センター(東区) ☎377-7881(夜7:30-翌朝6:00)
南区(611) ☎990-990
西區平白夜間急病センター(中川区) ☎361-7